大建工業株式会社
本社／大阪府大阪市北区堂島1丁目6番20号（堂島アバンザ22F）

DAIKENの製品を見て触れて選べるショールームへ、ぜひ、お越しください。
専任スタッフが、これからの豊かで快適な住まいづくりをサポートいたします。
全国のショールーム　札幌、仙台、新宿、秋葉原、名古屋、金沢、大阪、岡山、広島、高松、福岡

左記のQRコードより、携帯電話で各種情報をご覧になれます。

各ショールーム地図やイベントなどの詳しい情報は
DAIKENショールーム　検索
http://www.daiken.jp/sr/

提言！ニッポンを元気に

大阪大学理事・副学長（教育担当）

東島 清氏

産学官の識者インタビュー

社会要請への対応大事
大学院教育、変革を目指す

―2011年に、学内で横断的な教育の動きができる狙いで設置した「未来戦略機構」の活動が本格化してきました。

「ようやく形が整ってきた。未来戦略機構は大阪大学の〝大学改革の象徴〟でもある。これまでは文理をまたがった取り組みは少なかったし、それを担当できる事務部門もいなかった。学部はいったんできると統廃合などは難しい。未来戦略機構は〝未来形の学部〟として、部局間をまたがった本格的な組織だ。『博士課程教育リーディングプログラム』としても学生が独り立ちできる」

―プログラムの部門も発足時の2部門から8部門に増えています。

「1部門で大学院生が20人いるから、参画している学生数も100人を超えている。教育5部門、研究3部門でプログラムは共通するところがあっても専門分野を身につけるだけでなく、社会で活躍できる内容をプログラムに盛り込んでいるからだ。例えばコミュニケーション力養成などがそうで、これはすべてのプログラムに共通する取り組みだ」

―人材育成でも効果が高まります。

「グローバル人材を育てるためには語学力も重要。専門の英語力の他に一般的な英語力も欠かせない。阪大の大学院教育を変える役割も担っている。14年1月にはグランフロント大阪（大阪市北区）で、同様のリーディングプログラムに採択されている全国の大学の学生を募ってフォーラムを開催する計画だ」

―阪大が産学官連携などを通じて関西経済に与える影響も大きいです。

「従来の大学では、社会に対して貢献させる意識を持たずに教育していたと思う。大学院教育も社会からの要請にマッチしないから、こういうプログラムが生まれた。加えて、教育部門のリーディングプログラムでは、学生の選考過程に企業関係者も参加していることの意義も大きい。毎月の会合にも出てもらい、課題設定にも参画いただいているから社会を意識したものが育まれる。企業視点の意見は大学側からすると斬新なものも多い。13年は阪大発祥の適塾創設175周年の節目。阪大は関西の財界の支援で生まれた大学でもある。日本の大学院教育を変える起爆剤にしていきたい」

地域の強みを引き出す
売り込む手伝いも

世界に誇る技術

小林 利典氏

近畿経済産業局長

―関西の景況感をどのように見ていますか。

「関西経済全体は明らかに良くなっている。中小企業や地域の企業にはまだ良い影響が出ていないところが多いが、徐々に良い方向に波及していく。ただ圏内の設備投資はまだこれからの状況だ。一方、短期的には2013年度補正予算の省エネ対策などの設備投資促進補助金による効果が出始めている」

―関西の強みは。

「高い技術力を持つ中堅・中小企業が集積すること。地域に根ざしつつ世界展開する企業群の層の厚さが強みだ。ただ、中小企業は大企業との関係が希薄化するなか技術はあっても売り方が分からず、技術が埋没する懸念がある」

―近畿経産局の役割は。

「技術力ある中小企業が各地域に展開する中小企業支援機関、積極的事業展開を行う大企業・中堅企業などの幅広いチャンネルを活用し各地域や各産業をまとめるハブの役割を担う。地域の特色をうまく引き出すことも重要だ。全国の8地方経産局のチャンネルを生かした広域エリア展開もでき、その結節役を果たしたい」

―ライフやグリーンイノベーションなどを重点分野に支援しています。

「関西は大学や研究機関、製薬・医療機器会社などメディカル産業が集積するのが強み。これらの事業化を軌道に乗せるため大学や医療機関など現場ニーズに基づくマッチングや情報提供、開発補助金などこまやかに支援する環境づくりに取り組む」

「グリーン分野ではグリーン素材を活用した電池関連の新産業創出や当局の独自運営事業の『TeamE―Kansai』による廃棄物処理や水処理、大気汚染除去など地域の技術の強みを前面に出し環境ビジネスの海外展開を支援していく」

―中小企業は、単独では限界があります。

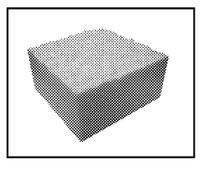
「例えばベトナムでは当局とベトナム政府が協力文書を結び、中小企業の工業団地進出、現地法人設立や業務のスムーズな手続きなどの後ろ盾となり、側面支援している。従来は単にグループ化すれば応援してきたが、今後は強みがある中小企業をこれまで以上にコーディネートし、一層強くしていく。中小企業は自らの技術に対し自信を取り戻すことが大事だ。世界に誇る技術を売り込むお手伝いをしたい」

関西からの〝提言〟
次代を切り拓く「企業力」

ECO技、クラボウ。

技の解説 ❶

住宅の建築現場でウレタン樹脂を水で発泡させる新工法です。
↓
ノンフロン、ノンホルムアルデヒドで、環境と人にやさしい断熱材。
↓
複雑な構造でもスキ間なく均一に。吸音性にも優れています。
↓
高気密・高断熱住宅でエネルギーロスを最大限に低減できます。



クラボウ・化成品事業部の硬質ウレタンフォームは住宅・ビル用の断熱材として高い評価を得ています。この開発で培った発泡技術をさらに進化させ、水で連続気泡を作るのが<ソフティセルONE>。高気密・高断熱による高性能住宅の屋根・壁・床で省エネルギー効果を発揮しています。
《住宅エコポイント対象商品》

高気密・高断熱住宅で活躍
<ソフティセルONE>

ECO技クラボウ　検索

クラボウ　http://www.kurabo.co.jp
この広告に関するご意見、ご要望をお聞かせください。広報グループ eメール:pr_grp@kurabo.co.jp
〒541-8581 大阪市中央区久太郎町2-4-31　TEL／06-6266-5073 FAX／06-6266-5555

クラボウはチャレンジ25キャンペーンに参加しています。